

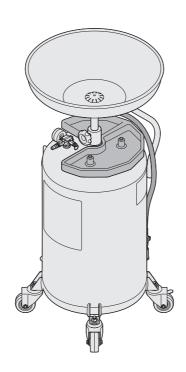
このたびは当社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。 この取扱説明書をよくお読みいただき、安全にご利用ください。

オイルドレーナー

No.GOD80DS, GOD80DBK, GOD80DR, GOD80DBL

取扱説明書

業務用



- ●梱包内容をご確認いただき、不足、破損のある場 合は、お求めの販売店までお申し出ください。
- ●この取扱説明書は、必要なときにすぐ読めるように、 大切に保管してください。
- ●第三者に譲渡・貸与される場合も、この取扱説明書 を必ず添付してください。

^{販売者の}·京都機械工具株式会社

〒613-0034 京都府久世郡久御山町佐山新開地 128 番地

本製品に関するお問い合わせは、お求めの販売店、 もしくは、お客様窓口にご連絡ください。

0774(46)4159 (FAX) 0774(46)4359

support@kyototool.co.jp

お電話での受付時間は 10:00~12:00 / 13:00~16:00 まで (土・日・祝日及び弊社休業日は除く)



もくじ

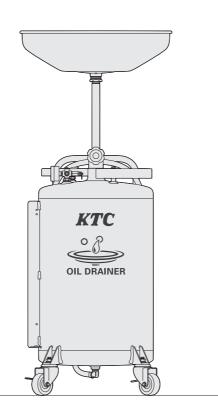
はじめに

■梱包内容リスト	05
■別売オプション品	05
■製品寸法図	06
■各部の名称	07
■製品スペック	07
お使いになる前に	
■安全シグナルについて	08
■安全上のご注意	09
■使用上のご注意	10
組立方法	
■組立を始める前に	11
○組立に使用する工具	11
○各部の締め付けについて	11
○排出ホースの格納	11
■本体の組立方法	12
■キャスター取付のピッチ円直径の拡大	14

使用方法

■キャスターブレーキの使用方法	16
■廃油下抜き作業時の使用方法	16
○廃油受皿の高さ調整	17
○廃油を受ける	17
○レベルゲージの見方	17
■廃油の排出方法	18
■ダイアフラムポンプを使用した廃油の排出方法	21
メンテナンスと保管方法	
■本体のお手入れ	22
■保管方法	22
■製品の廃棄	22
故障かな?と思ったら・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	23

Dil Drainer



はじめに

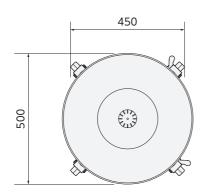
■梱包内容

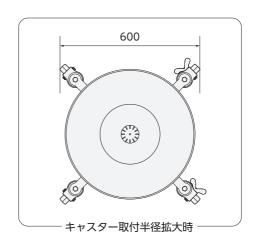
本体	廃油受皿	樹脂トレイ
排出ホース ノブボルト	x 1	※取り付けに使用するボルトと ワッシャは、開梱時には本体 側に取り付けてあります。 x 1
	スライドパイプ	キャスター用部品
x 1		ばねワッシャ
取扱説明書		袋ナット © ©
取扱説明書 x 1	x 1	ステー フッシャ 各 x 4

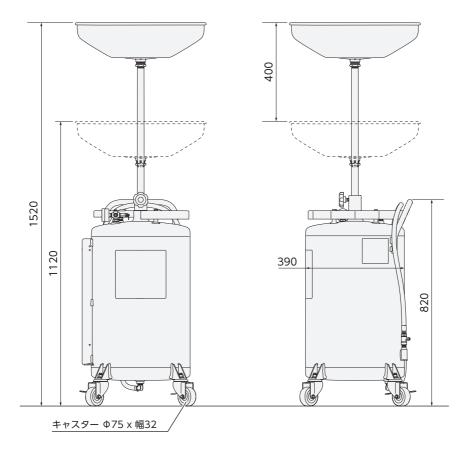
■別売オプション品

飛散防止マット	接続ホースセット
(No.GOD80D-M)	(No.GOD80D-H)
	接続ホース+カプラ(メス) カプラ(オス)+アダプタ

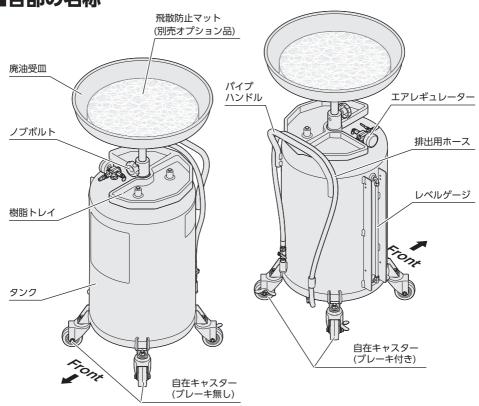
■製品寸法図







■各部の名称



■製品スペック

種類	オイルドレーナー(エア加圧式排出機能付き)	
タンク容量	80 L (有効容量: 60 L)	
タンク直径	Φ 390 (溶接部の厚み含まず)	
廃油受皿容量	17 L	
廃油受皿直径	Ф 500	
排出ホース	ー ス Φ9.5 x 1600 mm	
入力エアカプラ	1/4" PT	
入力ェア圧力	0.5~0.7 MPa	
キャスター	Φ 75 x 幅32 mm	
重量	約 30 kg	

お使いになる前に

■安全シグナルについて

この取扱説明書では、誤った使い方をしたときに発生する危害や損害の程度を 以下のように区分しています。



誤った使い方をすると、死亡または重傷を負う恐れがあります。



誤った使い方をすると、負傷または本体損傷の原因となる恐れが あります。

また、各項目にて以下のマークを付けています。



禁止行為

製品の取り扱いにおいて、その 行為を禁止するマーク。



必ず行う

製品の取り扱いにおいて、必ず 行ってもらう行為を意味する マーク。



注意事項

製品の取り扱いにおいて、注意を喚起するマーク。



確認事項

製品の取り扱いにおいて、事前 に確認しておく事項や、使い方 の応用を示すマーク。

■安全上のご注意

	・ 空告 ・ 死亡または重傷を負う恐れがあります。			
マーク	事項	危害·損害		
\Diamond	可燃性の液体(ガソリン、シンナー、ベンジン)や 腐食性物質(ブレーキフルード)などはタンクに 入れない。	本体が破損し、重大なケガの原因になる。		
\Diamond	本体を火のある場所に置かない。	破裂や有害物質発生の原因になる。		
	タンク内を加圧した状態で放置しない。	破裂や重大なケガの原因になる。		

注意 負傷または本体損傷の原因となる恐れがあります。			
マーク	事項	危害·損害	
\bigcirc	分解および改造をしない。	ケガや本体破損の原因になる。	
0	定期的に保守点検を行う。	怠ると故障の原因になる。	
0	本体に亀裂や破損が無いか定期的に確認する。	怠るとケガや本体破損の原因 になる。	
\bigcirc	表示ラベルははがさない。	ケガや本体破損の原因になる。	
0	本体が熱くなったり、異常を感じたら使用を中 止する。	怠るとケガや本体損傷の原因に なる。	
\bigcirc	車載用として使用しない。	ケガや本体破損の原因になる。	
\bigcirc	本体に強い衝撃を与えない。	本体の破損や器物損傷のおそれ がある。	
\bigcirc	本体に寄りかからない	ケガや本体破損の原因になる。	
\bigcirc	直射日光の当たる場所や熱機器の近くなど、高 温の場所には放置しない。	本体破損の原因になる。	
\bigcirc	取扱説明書に記載している以外の用途には、使 用しない。	ケガや本体破損の原因になる。	
\bigcirc	化学薬品、海水、水分などを付着させたまま放 置しない。	本体破損の原因になる。	
0	修理は、必ず購入した販売店に依頼する。	怠ると本体破損の原因になる。	

■使用上のご注意

・ 空 生 死亡または重傷を負う恐れがあります。			
マーク	事項	危害・損害	
	地面が水平な場所で使用する。	本体転倒や、重大なケガの原因 になる。	

注意 負傷または本体損傷の原因となる恐れがあります。				
マーク	事項	危害・損害		
\bigcirc	ノブボルトを緩める際には必ず廃油受皿を手 で保持する。	ケガや本体破損の原因になる。		
0	廃油受皿の高さ調整後は、必ずノブボルトが 締まっていることを確認する。	怠ると本体破損の原因になる。		
\Diamond	レベルゲージを超える量の廃油をタンクに 入れない。	ケガや本体破損の原因になる。		
0	廃油の排出は、排出先(ドラム缶や廃油層) の空き容量が十分かを確認した上で行う。	怠ると本体破損の原因になる。		
0	移動は必ずパイプハンドルを持って行う。	怠ると本体破損の原因になる。		
\bigcirc	使用しない時は必ずキャスターブレーキをか ける。	ケガや器物損傷の原因になる。		
0	樹脂トレイに重量物を載せない	怠ると本体破損や器物損傷の原 因になる。		
\bigcirc	本体の各部にエンジンオイルが付着したまま 放置しない。	本体破損の原因になる。		
\bigcirc	各部のシールテープは剥がさない。	本体破損の原因になる。		
0	長期保管が想定されるときには、タンク内の 廃油を空にする。	怠るとケガや器物損傷の原因に なる。		
\bigcirc	エアホースを接続しているとき以外、レギュ レーターのバルブを開かない。	ケガや本体破損の原因になる。		
\bigcirc	廃油を排出するとき以外、排出ホースのバル ブを開かない。	ケガや本体破損の原因になる。		
0	補修部品は必ずKTC純正品を使用する。	怠ると本体破損の原因になる。		

組立方法

■組立をはじめる前に

○組立に使用する工具

本製品の組立には下記サイズの工具が必要となります。

必要工具	使用箇所と用途	工具例
二面幅 37mm レンチ	廃油受皿とスライドパイプの接合	モンキレンチ等
二面幅 12mm レンチ	樹脂トレイの固定	めがねレンチ等
二面幅 19mm レンチ*	キャスターの組み換え	めがねレンチ等

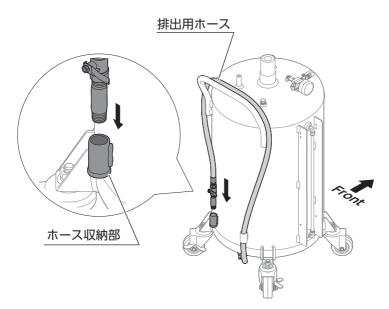
※P.12 キャスターの組み換えを行う場合のみ必要です。

○各部の締め付けについて

本製品の各ボルトナットには締め付けの規定トルク値を設定していません。 手動工具を使用する場合は、ボルトナットが緩まないように、確実に締め付けを 行ってください。

○排出ホースの格納

安全のため、組み立てを始める前に、排出用ホースを本体後側の "ホース収納部" に差し込んでください。



■本体の組立方法

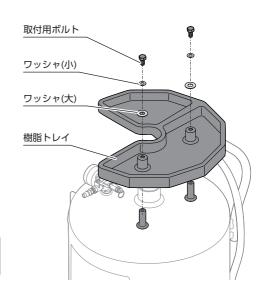
1. 樹脂トレイの取り付け

- ①樹脂トレイを本体に合わせ、ボルト とワッシャで固定する。
- ※取り付けに使用するボルトとワッシャは、開梱時は本体に取り付けた状態になっています。

使用工具: 12mm レンチ



ボルトを締め付けすぎないよう に注意する。



2. 廃油受皿の組立

- ①スライドパイプを廃油受皿へ手で ねじ込んでいく。
- ②ある程度ねじ込めたら、スライドパイプの六角部を、工具を使用して時計回りに回し、締め付ける。

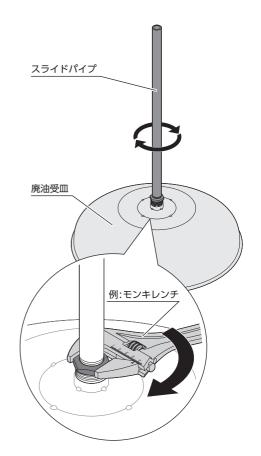
使用工具: 37mm レンチ



スライドパイプのねじは、最後 まではねじ込めません。



ボルトを締め付けすぎないよう に注意する。

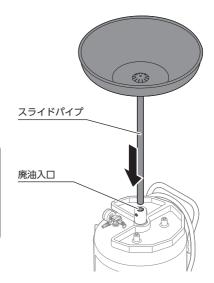


3. 廃油受皿の取り付け

①スライドパイプを本体の廃油入口の 穴に差し込む。



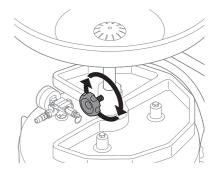
スライドパイプを奥まで差し込むと、ばねのような反動があります。これは本体内部の逆止弁の開閉によるもので、異常ではありません



②ノブボルトをねじ込み、スライドパイ プを固定する。

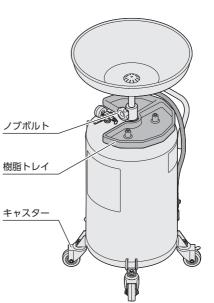


ノブボルトは、スライドパイプ に当たるまでねじ込む。



4. 各部の確認

①各部(キャスター部、スライドパイプ と廃油受皿接合部など)のボルトナ ットに緩みがないかを確認して、組 立完了です。

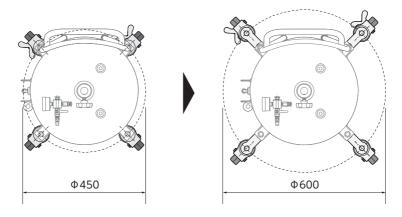


■キャスターの取付ピッチ円直径を拡大する

付属の"キャスター用部品"を使用することで、キャスターの取付ピッチ円直径を拡大し、本体の安定性をより高め、転倒を予防することができます。

これらは使用上**必須ではありません**。下記のような使用が想定される場合のみ推奨しています。

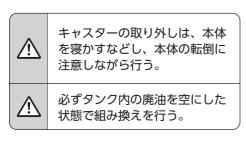
- ・作業現場が広く、本体の移動が頻繁に行われると想定される場合。
- ・タンク内の廃油を頻繁に排出できない環境であり、タンク内の廃油が限界まで溜まることが想定される場合。

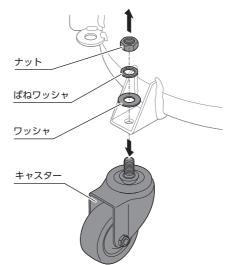


キャスター組み替え前と組み替え後のピッチ円直径

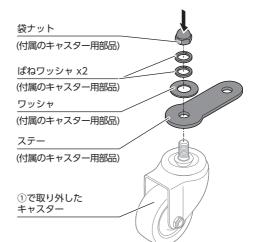
取付ピッチ円直径の拡大は、下記の手順で行います。

①本体とキャスターを固定している、ナット、ワッシャ、ばねワッシャを取り外す。

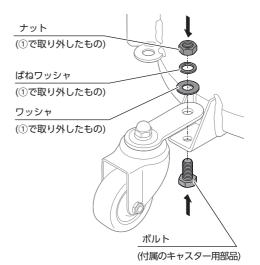




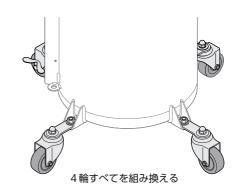
- ②①で取り外したキャスターに、キャス ター用部品を取り付ける。
- ※①で取り外したナットとワッシャはここでは使用しません。
- ナットは緩まないようにしっかりと締め付ける。



- ③①で取り外したナットとワッシャと、 キャスター用部品のボルトを使用し、②で組み立てたキャスター一式を本体に取り付ける。
 - ナットは緩まないようにしっか りと締め付ける。



- ④同じ手順ですべてのキャスターを組み換える。
 - キャスターの組み換えを行う場合は、必ず4輪全てに対して 行う。
 - キャスターの組み替え完了後、 必ずボルト・ナットの緩みやガ タつきが無いか確認する。



使用方法

■キャスターブレーキの操作方法

キャスター(ブレーキ付き)は、キャスター側面のペダルを踏みこむことで、車輪をロックしブレーキをかけることができます。

ペダルをキャスター手前側または 奥側に踏み込むことで、車輪がロックされブレーキ状態になります。

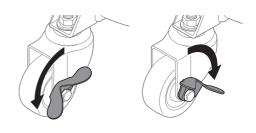
ペダルを中立の位置に踏みなおすことで、ブレーキが解除されます。



ブレーキをかけた状態で本体 を移動させない。



ペダル中立位置:ブレーキ解除状態



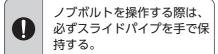
ペダルを手前側または奥側に踏み込み:ブレーキ状態

■廃油下抜き作業時の使用方法

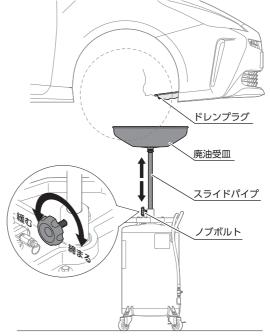
○**廃油受皿の高さを調節する** 廃油を受ける前に、必ず廃油受 皿の高さを対象東西に対して適

廃油を受ける削に、必り廃油受 皿の高さを対象車両に対して適 切な位置に調節してください。

廃油受皿の高さは、本体のノブ ボルトを緩め、スライドパイプ を上下させて調節します。対象 車両のドレンプラグに合わせて 高さを調節してください。



調節後は、必ずノブボルトが 締まっているか確認する。



○廃油を受ける

対象車両のドレンプラグ位置、方向 を確認し、本体および廃油受皿の位 置を微調整する。

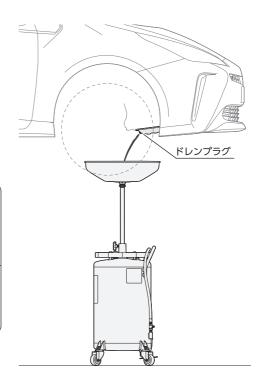
調整後、ドレンプラグを取り外して 廃油を受ける。



廃油の量、温度、ドレンプラグ の角度などによって、廃油の流 速が変化します。十分に注意し 作業を行ってください。



オプション品の飛散防止マット を使用することで、オイルの飛 散を予防することができます。



○レベルゲージの見かた

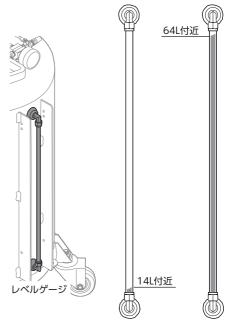
本体側面のレベルゲージで、タンク 内の廃油量を確認することができま す。

タンク内の廃油が 14L を超えるあたりで、レベルゲージに廃油が見えるようになります。

64L あたりで、レベルゲージが廃油 で満たされます。



タンクの容量の限界まで廃油を 溜めると、本体が非常に重たく なり移動時に思わぬ危険を招く ことがあります。タンク内廃油 はできる限りこまめに排出して ください。



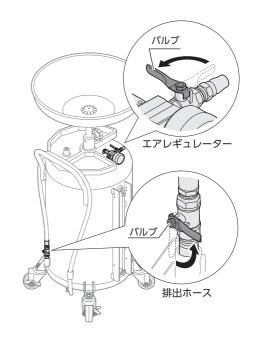
廃油が14Lを超えると レベルゲージに廃油が見えます。

■廃油の排出方法

①エアレギュレーターのバルブと、排出 用ホースのバルブが閉じていることを 確認する。



仕様上、タンク内の廃油量がおおよそ 24L を超えるまでは、廃油の排出はできません。



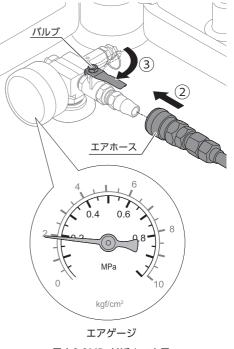
- ②エアホースをエアレギュレーターに接 続する。
- ③エアレギュレーターのバルブを開く。

タンク内の加圧が始まり、エアゲージが、最大で 0.2MPa 付近まで上昇します。

0.2MPa を超えると、安全によりレギュ レーターが作動し減圧されます。



タンク内の廃油量がおおよそ 24Lを超えるまでは、スライド パイプの逆止弁が作動せず、タ ンク内が加圧されません。

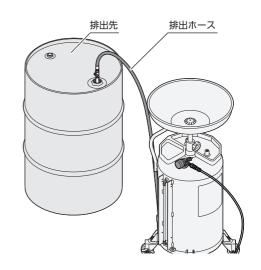


最大0.2MPa付近まで上昇

④排出ホースを排出先へ向ける、または 差し込む。

 \triangle

右図は排出の一例です。排出先 の仕様や周辺環境によって、本 体とホースの取り回しを変えて ください。



⑤排出ホースを手でしっかりと保持し、 排出ホースのバルブをゆっくりと開ける。

タンク内廃油の排出が開始されます。



廃油がホース先端から放出される瞬間は、強い反動があるため、 排出ホースをしっかりと保持しておく。

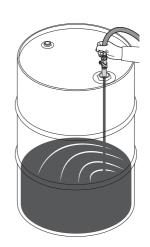


⑥排出中は、排出ホースを手で保持し 続ける。

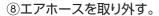
タンク内の廃油量が少なくなると、廃油と圧縮空気が混合し始め、ホース先端が振動します。

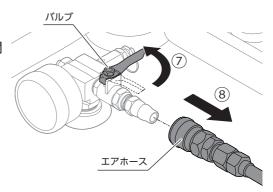


廃油の排出速度は、廃油の温度 や仕様により変化します。特に 廃油が冷えている時には排出に 時間が掛かることがあります。



⑦タンク内の廃油排出が終了したら、 エアレギュレーターのバルブを閉 じる。

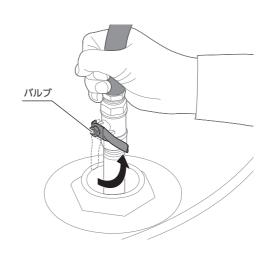




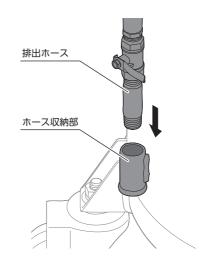
⑨タンク内の圧力が下がり、排気音が収まってきたら、排出ホースのバルブを閉じる。



排出ホースをドラム缶等から 抜きとる際に、残留オイルが 垂れることがあります。



⑩排出ホースを排出先から離し、ホース収納部へ格納して完了。

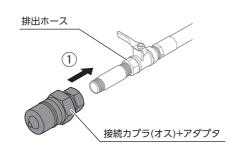


■ダイアフラムポンプを使用する場合の廃油排出方法

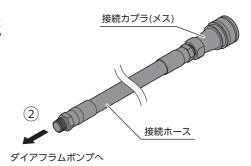
①排出ホースに、接続ホースセット(別売オプション品)の接続カプラ + アダプタを接続する。



テーパーねじのため、最後まで ねじは入りません。



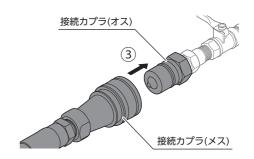
②接続ホース (カプラが繋がっていない方)をお手持ちのダイアフラムポンプに接続する。



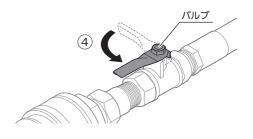
③接続ホースのカプラ (メス)と、接続カプラ (オス)を繋ぐ。



接続カプラのオスメスがしっかりと接続されているかを確認する。



- ④ダイアフラムポンプへの接続が完了 したことを確認してから、排出ホース のバルブを開く。
- ⑤ダイアフラムポンプ側の操作方法に 従い、オイルを排出する。



保管方法とメンテナンス

■本体のお手入れ

○本体の汚れ

本体が汚れた場合は、柔らかい布などを使用し、拭き取ってください。



シンナー、ベンジンなどは使用しない。

○各部の点検

各部のねじの緩み、排出ホースなどの亀裂、廃油受皿の破損などの異常が 無いか、定期的に点検を行ってください。

■保管方法

○製品の保管

直射日光が当たる場所、高温・多湿な場所を避けて保管してください。

○長期間ご使用にならないとき

長期間ご使用にならないことが想定される場合は、タンク内の廃油は必ず空 にしてください。

■製品の廃棄

製品の廃棄は、廃棄する地域の自治体の条例に従い、適切に処理してください。

故障かな?と思ったら

故障かなと思ったら、修理を依頼される前に、下記の点検をお願いします。 症状が改善される場合があります。

症状	考えられる原因	対処の方法
エアホースを接続してもタ ンク内が加圧されない。	タンク内に廃油が24L以上 溜まっておらず、タンク内の 逆止弁が作動していない	タンク内の廃油が24L以 上溜まった状態で、再度 同じ手順を行ってくださ い。
エアホースを接続し、タン	排出ホースのバルブが開い ていない。	排出ホースのバルブを開 いてください。(P.19)
ク内が加圧されても廃油が 排出されない。	排出ホースのバルブが詰ま っている、または消耗してい る。	排出ホースのバルブを交換します。(補修部品を設定しています。)
	廃油が冷えている。	対処法はありません。
廃油の排出が遅い。時間が 掛かる。	タンク内が十分に加圧され ておらず、オイルを排出で きる圧力に達していない。	排出ホースのバルブを閉 じて、タンク内をしばら く加圧してください。
廃油受皿からタンク内へ廃	廃油受皿の廃油流入口が詰 まっている。	流入口を清掃する。
油が流れていかない。	タンク内の逆止弁が詰まっ ている。	修理が必要となります。

各部の点検で、症状の改善が見られない場合は、ご自身で 分解等をなさらず、ご購入の販売店または KTC 取り扱い 店に修理を依頼してください。

